

教職実践演習（栄養教諭）

到達目標	A(100点)	B(80点)	C(60点)	D（1つでもあてはまれば不合格）
1 栄養教諭として必要な資質能力と自分の強みと課題を関連付けることができる(E)	栄養教諭の職務内容、食に関する指導の概要および教師に必要な資質能力を参照し、履修カルテをもちいてこれまで学修した内容や自主的に行った活動を振り返ることで現在の自分の課題と強みを説明し、これらを関連させて主体的に活動する意思を表明できる。	栄養教諭の職務内容、食に関する指導の概要および教師に必要な資質能力を参照し、履修カルテをもちいてこれまで学修した内容や自主的に行った活動を振り返ることで現在の自分の課題と強みを説明できる。	栄養教諭の職務内容、食に関する指導の概要および教師に必要な資質能力を参照し、履修カルテをもちいてこれまで学修した内容や活動を振り返り、教員の支援のもとに自分の課題と強みを説明できる。	栄養教諭の職務内容、食に関する指導の概要および教師に必要な資質能力を説明できず、履修カルテの振り返りができず、現在の自分の課題と強みなど自分の状況を理解できていない。
2 栄養教諭として求められる知識技能の修得状況を相互に確認し、高めあうことができる(E,G)	教職実践演習での学内、学外活動に主体的に参加できる。活動の準備を主体的に協力して行い、自らおよび他者の活動を入念に相互確認できる。自らが行った活動の内容、課題、実践を振り返り、栄養教諭としての専門性をふまえた自身の状況や理想とする食に関する指導を考察できる。各活動では、自身の意見を述べつつ他者の意見を尊重しながら意見を集約してまとめることに主体的に参加し、これらの要点を説明できる。教員や他者から得た意見を、よりよい見直しにしようとする意欲を表明できる。	教職実践演習での学内、学外活動内容に参加できる。活動の準備を主体的に協力して行い、自らの活動を入念に確認できる。自らが行った活動の内容、課題、実践を振り返りができる。各活動では、自身の意見を述べる、あるいは他者の意見を尊重することで集約してまとめることに参加し、これらの要点を説明できる。教員や他者から得た意見を、よりよい見直しにしようとする意欲を表明できる。	教職実践演習での学内、学外活動に参加できる。教員の支援のもと活動の準備を行い、自らの活動を確認できる。自らが行った活動の内容、課題、実践を教員の支援のもと振り返りができる。各活動では、自身の意見を述べる、あるいは他者の意見を尊重することで集約してまとめることに参加し、これらの要点を説明できる。	教職実践演習を通して、自らが行った活動の内容、課題、実践を振り返りを行うことができない。またこれらの要点を説明し、自らの見解を述べることができない。各活動では、他者と意見を集約してまとめることに参加できず、これらの要点を説明できない。
3 自らの栄養教育実践構想として課題と展望を述べることができる(E)	教職実践演習で自らが行った活動内容を総括し、栄養教諭としての専門性をふまえた食に関する指導や教員として持つべき資質と照らして、児童生徒、学校内の他の教員や職員、保護者や地域などの視点から理想とする栄養教諭像と現在の自分の状況についての見解を述べることができる。これらを踏まえて今後の栄養教育実践構想を説明し、他者や教員の意見や質問から今後の活動に発展する意欲を表明することができる。	教職実践演習で自らが行った活動内容を総括し、栄養教諭としての専門性をふまえた食に関する指導や教員として持つべき資質と照らして、児童生徒、学校内の他の教員や職員、保護者や地域などの視点から理想とする栄養教諭像と現在の自分の状況についての見解を述べることができる。これらを踏まえて今後の栄養教育実践構想を説明できる。	教職実践演習で自らが行った活動内容を総括し、栄養教諭としての専門性をふまえた食に関する指導や教員として持つべき資質と照らして、児童生徒、学校内の他の教員や職員、保護者や地域などの視点から理想とする栄養教諭像と現在の自分の状況についての見解と今後の栄養教育実践構想を教員の支援のもと説明できる。	教職実践演習で自らが行った活動内容を総括し、栄養教諭としての専門性をふまえた食に関する指導や教員として持つべき資質と照らして、児童生徒、学校内の他の教員や職員、保護者や地域などの視点から理想とする栄養教諭像と現在の自分の状況についての見解と今後の栄養教育実践構想を説明できない。